

研究「乳児院において特別な配慮を必要とする子どもの実態調査—アタッチメントとトラウマ等の問題を抱えた子どもたち—」について(結果概要版)

研究の経緯・知りたいこと

- 子どもたちは家庭での不適切な養育等様々な背景をもって、乳児院にやってくる
 - アタッチメントやトラウマの問題がみられる子どもや疾病や障害をもつ子どもがおり、乳児院は専門的な養育を行い、育ちを繋ぐとしている
 - しかし、どのような子どもたちがいるのか地域の人や社会に十分に理解されていない現状がある
- 子どもの育ちを繋ぐうえで、支援や制度のさらなる充実のためにも実態を把握する

明らかにしたい問①

乳児院には心配な行動を見せる子どもがどの程度いるか? → 保育所と比較

明らかにしたい問②

心配な行動は子どものリスクや経験と関連するか?

明らかにしたい問③

乳児院入所中に心配な行動は減るか? 増えるか?

方法

- アンケート調査にて乳児院・保育所の子どもごとに子どものSOSサインに関する項目について担当養育者およびクラス担任に回答を依頼
- 保育所には調査時の様子のみ、乳児院には入所時の様子と調査時の様子を尋ねる
- 調査対象者: 乳児院 1113人 保育所 603人
- 妊娠期のリスク・家庭のリスク・被虐待経験・障害児・病虚弱児・発達特性・小児期の逆境体験は、乳児院の方が多い

項目

第1因子
情緒の不安
定さ

第2因子
コミュニケーション
課題

第3因子
身体・健康の
課題

h15	ちょっとしたことと怒りやすく、いらいらしたり、泣いたり、機嫌がよい時が少ない。	.310
h13	一度感情が不安定になると落ち着きにくい。(例 なかなかなだみにくい、落ち着くまでに時間がかかる)	.470
h16	年齢にそぐわず、突発的なこと・予想外なことがおきたり、自分の思い通りにいかなかったりすると、頻繁にパニックやかんしゃくをおこす。	.466
h18	注意されそうなされた時に過剰な反応をする。(例 激しく泣く、立ち尽す、ものに当たる、目をあわせなくなる、固まる) ※声をかけられたり名前を呼ばれたりしただけの時、他の子が注意されたのを見た時も含む	.273
h21	これまで見たり体験したりしてきたこと(トラウマ)を再現するような行動をする。(例 虐待、DVの目撃、性的曝露を経験した子どもが、他児に対する攻撃や言動をとる。性器を何かにすりつける。遊びの再演など) ※子ども自身の過去の経験が表れる)	.000
h11	感情表出で心配な点がある。(例 徐々にではなく突然に極端な激しい泣きを示したり、表情が乏しかったり、泣かさずさたり等)	.573
h12	大人や他児にむかって攻撃する。(例 叩く、かむ、にらむ、つねる、暴言)	.223
h17	環境の変化や刺激に対して過剰に反応する/逆に反応が薄い。(例 痛みがあるはずなのに、反応が弱い。影や気配、視線、物音などに固まったり、激しく泣いたり)	.466
h23	感情と表出される行動が一致しない。(例 作り笑いをみせる、子ども自身が怒っているのに笑ってしまう、不安すぎて寝てしまう(解離))	.120
h20	特定の場所や状況に対し、恐怖や不安で、激しく泣いたり、固まったり、ぼーっと立ち尽したりする。(例 男性、トイレ、お風呂、救急車やバトカーの)	.209
h29	泣いたかと思ったら急に笑うなど、脈絡なく不安定に感情が変わる。	.166
h9	健康・衛生習慣等の生活習慣で心配な点がある。(例 治療されていない虫歯や肌あれ、衣服の汚れ)	.116
h31	身体や行動に症状として現れる。(例 臆断(かんもく)、吃音、チック、円形脱毛)	.014
h19	通常子どもが見えないような心配な自己刺激行動や自傷行動が頻繁に見られる。(例 頭打ち、自分の毛を抜く、性器いじり、自分の手を噛む)	.168
h27	家族との接触中、接触前後の子どもの様子に心配な点がある。(例 家族との分離に抵抗を示さない、すぐ眠る、従順になる、テンションの高低がいつもと異なる、退行、拒絶したり怯えたり、家族との面会がなかったかのようにふるまう)	.179
h22	他者からの呼びかけに反応しないことがある。※意図的に無視することは除く	
h25	相手の顔を見なかったり、目が合わなかったりする。	.212
h24	指さし行動や共同注意がみられない。※共同注意とは、例えば、大人が指さしたものに気づいて、指さした先や視線の先のものをみることです。	.296
h30	無気力で意欲が低く、抑うつ的な様子が見られる。(例 遊ぼうとしない、ぼーっとしている、床に寝そべる)	.189
h26	人への興味が全体的に薄い。(例 乳児期に社会的微笑が見られない、自閉傾向が強い)	.058
h28	子ども同士での関係が築きにくい。(例 他児の遊びを邪魔する、他児に関心を持たない)	.181
h14	反復的な行動が目立つ。(例 手をひらひらさせる、上半身を前後にゆする、その場でぐるぐる回るなどの常同行動)	.370
h10	コミュニケーションの発達で心配な点がある。(例 発声が少ない、発音が乏しい、言葉の発達・表出の問題)	.225
h1	だっこしにくい、身体の緊張が強い/ゆるい等、力の入れ具合に心配な点がある。	.563
h3	不器用さや運動発達のごちごちなき(アンバランス)がみられる。(例 年齢にそぐわずハイハイや寝返りをしない、スプーンを口には上手く運べない、おもちゃをつかめなかったり離せなかったりする)	
h2	皮膚の感覚過敏がみられる。(例 触られるのを嫌がる、足裏が敏感で歩きがたらない)	.470
h6	授乳・摂食で心配な点がある。(例 哺乳力・摂食機能に問題がある、授乳の仕方によって飲み具合が変わる、偏食・過食・小食)	.341
h5	発達面で心配な点がある。(例 体重が増えない/減少する)	.323
h7	睡眠に心配な点がある。(例 寝付けにくい、眠りが浅い、夜驚、昼夜逆転)	.313
h4	体調面で心配な点がある。(例 風邪をひきやすい、熱がやすい、中々治らない)	.265
h8	排泄面で心配な点がある。(例 便が固にくい、月齢にそぐわないおもらし・遺棄がある)	.291

第1因子

第2因子

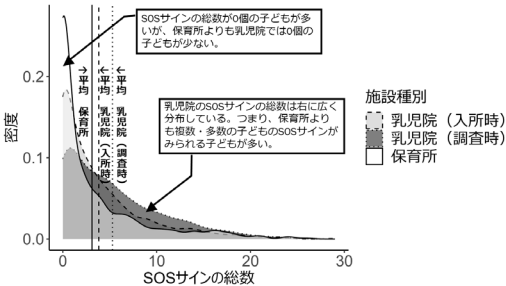
第3因子

.539

.475

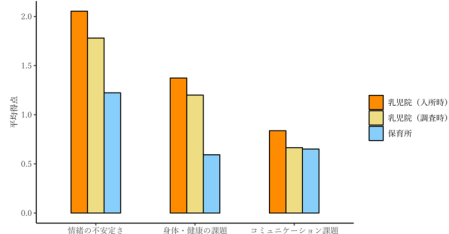
.759

問① 乳児院には心配な行動を見せる子どもがどの程度いるか？

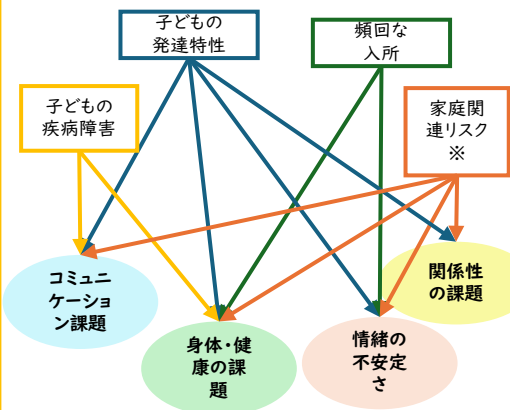


子どものSOSサインは乳児院・保育所どちらも0の子どもの数が多いが、乳児院の方が、右の裾野が広く、統計的にSOSサインの個数が多い子どもが多い

情緒の不安定さや身体・健康課題については乳児院入所時点で0になりにくく、数も多くなりやすい
 コミュニケーション課題は、乳児院入所時・調査時、いずれにおいても0になりにくい

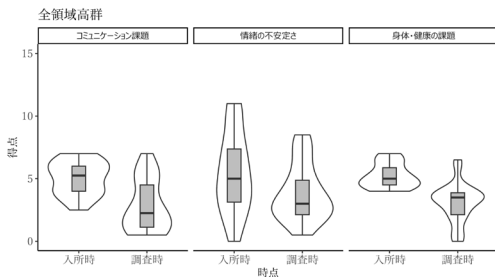


問② 心配な行動は子どものリスクや経験と関連するか？



問③ 乳児院入所中に心配な行動は減るか？増えるか？

- 入所期間をコントロールした上で、入所から調査時にかけて子どものSOSサインの総数は統計的に有意な減少傾向がみられる
- SOSサインのどの領域についても、統計的に有意な減少傾向がみられる
- ただし、全体的な減少はみられてもあまり変化のない子どもや増えている子どもも一部いる(全領域高群)



研究からわかったこと

- 子どもの心配な様子は、保育所の子よりも乳児院の子にも多く見られる
- 子どもの心配な様子は、子ども自身のリスクや、家庭のリスク、頻回な移動(分離経験の多さ)によって予測される。
 - 情緒面の懸念は家庭関連のリスクや頻回な入所、子どもの発達特性と関連
 - 身体健康面・コミュニケーション面の懸念は、子どもの疾病・障害、子どもの発達特性と関連
- 乳児院の子どもの心配な様子は、全体的に入所～調査時にかけて減少傾向がみられる。ただし、一部高く維持される子どもや増加する子どももいる。

● 研究報告書・パンフレット↓ (詳細な数値や他の分析を知りたい方は下記をご覧ください。)
crc-japan.net/research/themed_research/y2024/